

## 令和2年度 第2回八戸市博物館協議会 議事録

日時：令和3年2月18日（木） 14：30～15：17

場所：八戸市博物館2階 体験学習室

### 出席委員（9名）

議長 新原 秀郎 （会長）  
工藤 竹久 （副会長）  
加藤 眞人  
有馬 克美  
川口 桂子  
滝尻 善英  
田端 良子  
鈴木 規夫  
鈴木 善美

### 事務局出席者（8名）

小保内 裕之（博物館館長）  
竹洞 一則（資料館館長）  
下村 恒彦（博物館副館長）  
船場 昌子（博物館主幹）  
野沢 江梨華（博物館主査兼学芸員）  
山野 友海（博物館主事兼学芸員）  
中尻 貴之（資料館主事兼学芸員）

### 次第

- 1 開会
- 2 博物館館長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 案件
  - （1）令和2年度事業実施報告について
  - （2）令和3年度事業計画について
  - （3）その他
- 5 閉会

#### 【4 案件（１）、（２）】

（事務局説明後、質疑応答）

議長

ありがとうございます。ただいま、事務局より事業実施報告書と新しい新年度事業計画について説明を頂きました。何か御意見、御質問ございましたら、よろしくお願ひします。何かございますか。

鈴木委員。

鈴木(善)委員

中世の小袖を作るのはすばらしいのですが、小袖を着ていることによって、昔の絵だと、阿国歌舞伎では足を広げても足は見えないという、そういう絵を準備して、実際、足を広げても足が見えないという説明をしてあげればいいのではないのでしょうか。今回の大河ドラマ「麒麟が来る」でも、ほとんど立ち膝が多かったです。あれは結局、膝が見えないから立ち膝やってもいいのです。今の着物だと、江戸時代になって徳川家康がもったいないからと今の寸法に変えたのですが、そういう形にもっと説明できるような資料を作っていただければ、来た人も楽しいのではないかと思います。

議長

ほかに、何か御意見ないですか。

川口委員

少し質問です。体験学習講座の「しだれ桜をうたう」は4月に開催予定でしたが、コロナでできませんでした。11月にどういう形で行われたのか、ちょっとお聞きしたいと思います。あと8ページの新規企画「秋の収穫祭」、何か楽しそうな行事ですが、どのような体験行事として行われたのか、この2つを詳しく教えていただければありがたいです。

事務局

まず、短歌の講座につきましては、しだれ桜の季節が休場になってしまいましたので延期して、11月に「大銀杏をうたう」ということで開催をいたしました。やはり自然をうたうもので、紅葉の時期でということなので11月の延期となっております。

また、秋の収穫体験は今年度から始めました。8ページの「秋の収穫祭」ですが、これは広場に植えてある、いわゆる「実のなる木」の実を活用しようということから始まったものでございまして、クリやクルミ、トチなどの皮がついた状態のものを子供たちが集めまして、皮をむいて実際の実を見てみるというような講座として開催したものでございます。今年度からの開催企画ということもありまして、いつも保育園で散歩にいらしていただいている長坂保育園さんにお声がけをさせていただいて、どういう形で今後より拡充をしていくかどうかということも含めて、新規

企画として実施したものでございます。

川口委員

コロナ禍でイベントを中止されているケースが多いようで、こういう形でできるもの、史跡根城の広場に来てもらって、様々な体験をしてもらう形でやれるものがあれば、いろいろ活用方法が広がるのではないかと考えていましたので、こういうのは面白いと思います。

事務局

ありがとうございます。

議長

はい、滝尻委員。

滝尻委員

川口委員から質問が出たので、私も同じ質問ですけれども、あれっと思ったことと、それからもう一つ提案と、2件お話させていただきます。

まず1点目の質問ですけれども、7ページの「桜をうたう」、この短歌ですが、結局集まったのが1人だけと結果的にそうなったわけです。八戸にたくさんの文芸団体があるのですが、なぜ短歌をうたうことになったのですか。これは二、三年続けていますが、その経緯のところを教えてください。そして、八戸というと、殿様が俳諧ですから、やはり俳句だと思うのです。俳句ではなくてなぜ短歌としたか、その経緯を教えてください。

この質問と、もう一つは提案ですけれども、今、川口委員からもお話が出たとおりですが、こうしてコロナ禍で中止が続いているなか、こうして努力して、いかに実施するかということを考えて実施しているなと思います。特に3ページの教育普及事業も、たくさん努力しながらやっているというのが分かりますし、働き方改革と言われているなか、本当に過重疲労にならないようにということもあるのですけれども、その中で、4ページ3番の「市民講座」が今回コロナ禍でリモートになりました。中央から講師が来るとやはりリモートになってしまうわけですが、地元の方を講師にすれば、実際に開けるのではないのでしょうか。根城の広場で熊谷先生が実際に講演できました。ああいう形で人数制限しながら地元の講師を呼んで、リモートにしないで実施するということはできないのかなということを提案させていただきます。この2点、まずは短歌の経緯です。

事務局

根城の広場の講演会、講座につきましては、八戸の歴史あるいは民俗、文化に関わるものに係る講座を開催してほしいということで、指定管理者に実際の企画はお預けして、こちらと協議しながら進めている状態で、講師の選定も基本的には指定管理者で行っております。

なぜ短歌になったのかという経緯につきましては、大体3年から4年ぐらいで講師の先生方、内容の見直しを図っていますけれども、ちょうど3年前に、さくらま

つりに合わせて短歌の講師をとということで、指定管理者側からの提案がありまして選定したものでございます。昨年度、一昨年度とさくらまつりに合わせての開催ということもあって、比較的人数としては安定して参加者が来たのですけれども、今年度は少し時期がずれたということもありまして、低調に終わったということで、次年度以降どうするかということ、指定管理者と協議を進めているところでございます。俳句のほうがという御提案につきましては、そちらとまた改めて協議をしたいと考えております。

滝尻委員

分かりました。指定管理とのやり取りだったのですね。

事務局

そうです。

滝尻委員

八戸は俳句団体が多く、大きな団体もあり、そちらからの話もあり、また参加者1人という数が出ると、うちの川柳団体ならもっと来るのにとか、こういう声も出てくると思います。承知しました。

議長

加藤委員。

加藤委員

今年は新型コロナ禍により、特別な1年でした。個人的には、特別展では飢渴展や南郷の刀の特別展に興味があったのですけれども、いろいろ企画したものを中止せざるを得なくて、大変な1年であったと思います。「博物館だより」を見ますと、私、アナログ人間なのでデジタルのものは全然駄目なのですが、例えばユーチューブとかあるいはSNSとか、そういったものを駆使して様々な発信をされたようで、その辺は博物館の方々も大変だっただろうなと思っています。まだコロナも続いています。ただそういう意味では、新しい発信の方法を工夫する機会になったのかなという感じもありまして、今後もまだ続くでしょうけれども頑張りたいと思っています。

それから、私がボランティアグループの一員でありますので、ボランティアについて一言申し上げますと、今年はコロナ禍で特別な1年であったわけで、例年、出発式とか総会とか忙しい3、4月に、八戸にコロナが発生した関係で全て中止となって、さくらまつりも中止になったわけです。それから、4月からはガイドも休んで自宅待機をしていたわけですが、7月から一応、博物館の御配慮により、平日だけはということでガイドいたしました。博物館の指導を受けながら、感染予防に気を配りながら、最小限のガイドを行いました。厳しい状況が続きまして、団体についてもキャンセルが続いて、例年であれば、大体毎年5,000名100団体位ガイドしておりますけれども、今年は大幅に落ち込んでしまいました。ただ、その中でも約1,000名をガイドして、20団体をガイドしましたので、ガイドグループの活動とし

では細々としても継続できているので、うれしく思っています。

それから、根城まつりも縮小開催されましたし、研修旅行も博物館の御配慮により人数を制限しましたが、会員の方々から参加がありました。それから、4月に実施予定の新人養成講座も10月、11月に開催されて、5名の新人が入りました。そういう意味では、我々が自宅にぼおっとして1日過ごせば、ガイドグループそのものが潰れる危機もあったのですけれども、何とか、博物館の御配慮により細々でも継続できそうで、我々ガイドは高齢化していますので、健康第一なので、コロナに気をつけながら、何とか活動を継続していきたいと思います。博物館の皆様には、そういう御配慮を感謝したいと思います。

議長

ありがとうございました。そのほかございませんでしょうか。

工藤委員

資料の5ページで、「丹後平古墳群の保存処理」というところで出ていますけれども、保存処理の件で岩手県立博物館に以前頼んであったという、実態はどうなっているのかというのを、ちょっとお知らせいただきたい。

あとは南郷のことですけれども、刀匠展を見に行ったら、若い女性が結構熱心に見ていたのです。距離は離れていても、内容が伝わって展示を見て回っているのだなと思ってうれしかったのですけれども、何かこういったことに対する目のつけ方をどうやって決めていったのか、ちょっとお聞きしたい。この2点お願いします。

議長

事務局。

事務局

丹後平古墳群の岩手県立博物館による無断サンプルの件について、説明をさせていただきます。この事案自体は、岩手県立博物館が岩手県内からの自治体から預かった文化財につきまして、所有者に無断でサンプル切り取りを行っていたことが明らかになり、その中にすでに重要文化財になっている物が含まれているということで、報道で大きく取り上げられているものでございます。

丹後平古墳群の出土品につきましては、平成30年に国の文化財指定を受けておりますが、この前の段階と、その次の段階で、岩手県立博物館で保存修理をお願いしておりました。これにつきましては、保存修理の際にサンプルを採取して、その結果を報告書等で公表するというをあらかじめ契約に盛り込んだ上で、保存修理をお願いしているものでございました。今回、丹後平古墳群出土の重要文化財につきましては、全ての資料でX線撮影を行いまして、サンプル採取の痕跡が見られるかどうか、そのサンプル採取が契約に基づくものであったのかどうかというものを岩手県教育委員会で検証しました。その結果、全てこちらの承諾の上でサンプルを採取したものであるということが、一応契約書あるいはX線など、当時の記録を基に確認ができたということで、無断事案ではないという結論が、昨年8月に岩

手県教育委員会から発表されたものでございます。

岩手県立博物館での他の事案につきましては、まだ継続して調査は行われておりますので、これにつきましては、また随時、岩手県のほうからこのような結果報告があると伺っております。

#### 事務局

南郷の特別展は、目の付けどころといたしますか、刀匠会様からどうですかとお話があったということがございます。もう一つは開館 40 年記念ということで、これまでに扱ったことのない企画につきましてやりましょうということになり、そういったところもありまして、今回刀匠展をしました。

#### 工藤委員

リカちゃんの人形というのも、何となく、南郷で大丈夫かと思いましたが、着重点というのはすごく大事だと思うので、これからもいい展示を目指して頑張ってください。

#### 議長

南郷のほうは入館者が少ないなかで、リカちゃん展や刀展でたくさん人が入っていて大変いいことだ。私も必ず見ているのですけども大変面白いです、目の付けどころ。頑張ってください。

#### 加藤委員

私も資料館に行ったときに、刀の展覧会で人が来ていてびっくりしました。何年か前に博物館でキレモノ展をして、赤羽刀とか展示していました。今回の資料館は東北の現代の刀鍛冶、現代の名刀で、つながりがあったのですね。やはり根強いファンがあるのかと思いました。目の付けどころも、前の博物館と少しタイプが違っていても、結局つながりがあった。そういった意味で続くと、似たような感じで、いい企画をすればお客が入るのでないかと感じました。

来年はクジラ展。私は郡部の生まれだけれど、うちの家内が浜のほうの生まれだから、よく正月はクジラ汁が出ました。資料館でクジラを取り上げれば、クジラ汁の話も出るのかなと思いました。

#### 事務局

補足ですけれども、リカちゃん展が過去 1 位で約 3,500 人です。2 位が広島原爆展、このときが約 2,900 人。今回、刀匠展が 2,100 人ですが、リカちゃんも原爆もいわばパックの展示でしたので、それに比べて、今回の刀匠展、刀匠会と話し合いながら人がたくさん入った。コロナ禍であっても、工夫で何とかなることもあるということが分かりました。

#### 議長

ありがとうございます。今、コロナで旅ができないというので、歴女という歴史に興味を持つ女性が増えてきたと、お城のことや何かでよくテレビでやっています。やはりそういうのが影響して、興味関心があるのではないかと。

## 加藤委員

補足をすみません。実は、正月の3日に番組「日本最強の城」で、根城は最強の城ではないけれども、名城ということで取り上げていたけれども、仙台の知り合いの方から急に電話が来て、根城があんなにいい城と知らなかったと。やっぱりそういったマスコミの効果というのはすごいものがあるのだなと思いました。

それから、来年は史跡指定 80 年といった節目の年なので、何か今年からつながりがある方も見ていらっしゃるので、まず根城が世の中に知られていけばいいなと思っています。

## 議長

そのほか、はい。

## 有馬委員

コロナの中で、職員の皆さんが大変御苦勞なさってきたというのは分かるのですが、全般的なことをお話しします。

キャプションの難しい漢字をどう読むのかなというのはたくさんあるわけですが、丁寧にルビをふってください、その点はありがたいと思っていつも見ていました。

あとは、ほかのことでも共通するのですが、今のえんぶりが中止になって、その中でえんぶり展をやっているわけですが、このえんぶり展のチラシです。もう一つ、「はっち」で今やっているのですが、こんな立派なチラシを刷って、予算が余っているのかという感じがするのですが、同じような企画で、切り口が少し違うという感じで、「はっち」が入門編で、少し詳しく知りたい人は博物館に来てね、というような感じの展開になっているのです。こういうのは、例えば、これから縄文が世界文化遺産の登録になるという機運があるわけです。そうすると、こっちにも縄文の展示物がある、縄文館にもある、ほかにもあると思いますが、そういうものも連携といいますか、縦割りというような感じで私は受け止めているのですが、そういうところを取り払って機運を盛り上げていくというようなことを、考えていただければと思います。

## 議長

はい、館長。

## 事務局

はっちのほうは、やっぱりお金持っていらっしゃいます。縄文遺跡群に関しましては、ここで持っている長七谷地貝塚が除外されましたけれども、まだそれでも有力候補として、今資産になっているものの1個下というランクにとどまっていますので、以前からも連携していますし、これからは従前どおり、連携して展示等開いていくことになると思います。

## 有馬委員

登録となったら一斉にやれるように、準備しておいていただければいいなと思っ

ていました。

滝尻委員

今の話だけでも、例えば縄文は、博物館では俯瞰できるような展示で、縄文館のほうは専門的に。えんぶりについても先ほどお話ししたとおり、こちらは歴史的なことを中心に展示する、はっちのほうは観光を中心に展示して、それぞれの役割を果たしていけばいいと思います。

質問ですが、昨日 17 日は市内の小中学校がお休みだったのですが、入館の様子はどうだったのか、その様子を教えてください。

事務局

昨日は特別な日だということで、小中学校会のほうで、まずあらかじめアナウンスをしまして、来たら記念品を差し上げますということをお伝えしておりました。ふたを開けましたら、昨日で約 70 名の小中学生が入っています。これは例年に比べると倍以上入っていただいたということで、もう少し来るかなと思ったのですが、そういう数でございました。

滝尻委員

やはり学校のほうでプッシュしているわけですか。

事務局

そうです。

滝尻委員

はい、分かりました。

議長

やはり歴史と観光と、それでリンクしてやらなきゃいけない。例えば、ひな祭りも確かに博物館が歴史的なもの、街中の更上閣とかそういうところは、観光のために三八五が中心になってやってくださいました。やっぱりそこをもう少しやっていかなきゃいけないかなと思います。縄文の中心がここと縄文館ですから、それなりの連携を取っていただければと思います。よろしくお願いします。そのほかございませんか。

有馬委員

ちょっとすみません。

議長

はい。

有馬委員

関連して、チラシを作るときに、こちらでは関連してこういう展示していますと、こういう企画をやっているというのも盛り込んで、こうやればいいと思うのです。そうすると関心ある人が、街の中を回遊する格好になります。その辺、少し工夫していただければと思います。



議長

そのほかございませんか。

田端委員

私は南郷の企画展「葉たばこ農家の1年」を、とても興味があつて拝見しました。その中で、南郷の方たちが捕鯨船に乗って出るといふこと初めて知つたので、南郷の人に聞いたら、やはりお家にクジラの民芸品というのでしょうか、何かそういうものがそれぞれの家庭に飾つてあるというお話を聞いていました。3年の予定が山から海へ出た男たちという展覧会名で、これはまた続きが見られるといふことで、とても楽しみに思いました。

それと、今回の手仕事とか、私たちに藁を与えられて何を作ろうとしても、全く何もできないといふこと、昔の方々は生活に必要なだとは言いつつも、本当に知恵を絞り、みんなで作り合えるといふ、そういうことはすごく素晴らしい。このコロナで様々なことが報道される中、こうやって生活が苦しい中でも、こういうふうなことを、知恵を働かせて生き抜くといふことは、今のこの時代といふのを、対比するわけではないのですけれど、昔の方々はもっと苦しい生活を強いられていたのだらうな、だけどたくましく生きてきたのだなといふところを、今回の南郷の企画展にしろ、手仕事展にしろ、感慨深く拝見しました。ありがとうございます。

議長

そのほかございませんか。鈴木委員。

鈴木(規)委員

もしかして、その他に入るかもしれないですけども、今日はちょっと早く来て、久しぶりに館内を一回りさせてもらいました。そのところで気付いたところとか話したいと思います。

まず、感染症対策をしっかりしているといふところでは、あちこちに手指消毒液もあつて、そこのトイレのところにある低いのは、もしかして子供用なのかなと、その辺まで工夫しているのかと思つて感心しました。

解説シートも前と変わつていて、年表があつたりケガジとかもあつたりして、少しずつでも変えていて、いいなと思つました。

参勤交代の絵も前からありますが、大体小学校6年生で習うところですが、大体16日かかつていくといふのが、泊まる場所も分かるといふのはすごくいいと思つています。その費用の割合も出ていたのですけれども、そこにトータルどれぐらい今の金額でかかるのか分かれば、子供たちもすごく引かれるでしょう。何に何パーセントといふのが円グラフでありました。

あとは、昭和の家といふところがあつて、昭和になつて前と大分変わつてきているといふところが、目で見て分かりやすくいいと思つました。あと前後するかもしれませんが、ケガジのところ、ケガジのときに食べていた標本、レプリカ的なもの、このようなものを食べていたといふ具体物もあつたので、子どもたちに明示

しやすくていいなと思いました。

イカ釣りの展示がたくさんあったのですが、あれに実際イカのレプリカでこういうふうにつっかかるというのがあると、きっと子供たちにも分かって面白いのではないかと思いました。

丹後平古墳の実物大があり、ここに刀があったというのもあってすごくよかったです。もしかすると、今の時期でなかったら、きっとあそこで寝ころぶ子たちが出て、いい企画だなと思いました。ただ、1回目素通りしたので、何かで視線が向くようになればいいかと思いました。

あと、無形資料展示室のタブレットあったのですが、人感センサーで入ったら動作し始めました。すぐに目が行ったので、いろいろ工夫されていると思いました。早く子供たちを連れて来たいと思いました。どうもありがとうございます。

議長

はい、ありがとうございます。そのほかございませんか。

有馬委員

次年度で、先ほど話してくれたクジラ展というのを、ようやく実現の方向になったのですが、山の人たちが何でクジラ取りに行ったのかという、素朴な疑問が市民の皆さんにはあると思いますけれども、そこを分かりやすく展示してもらえばいいなと思います。せっかくあそこまで行って帰ってくるというのはもったいないので、先ほど話したクジラ汁の調理実習をやるとか、それから道の駅で1日何食限定とか何曜日限定でいいと思いますが、クジラ汁の定食を出してあげるというような企画をして、地域全体が盛り上がるような企画などを、何か考えていただければと思います。

事務局

予算がまだ決まっておきませんので、詳しくは言えないですが、汁物については一応検討を続けております。

有馬委員

地域の皆さんにご協力お願いしてもいいと思います。

事務局

お願いする予定です。

議長

はい。

加藤委員

すみません。今年は特別な1年だったわけで、その関係もあって、モニターツアー的なものを今年は結構しました。例えば三八県民局主催では、三八地域歴史観光モニターツアーという、聖寿寺館とか三戸城とか根城をつなげて考えるような観光ツアーで、そのほかに市の観光課が主催したものとか、いろいろあったわけですが、ただ残念ながら、コロナのほう危険な状況で、感染が拡大したので、なかなかう

まくいかなかったものもあったと思います。

今年企画していた三戸城を歩くは、コロナで実現しなかったですけども、今後も根城だけの単独でなくて、例えば三八城公園の八戸城とか聖寿寺館とか三戸城とか、南部氏の史跡がたくさんあるわけですので、その辺にもつながるような企画は、今後も続けてぜひ実現していただきたいと思っております。

議長

そのほかございませんでしょうか。はい、どうぞ。

川口委員

入館者自体減っているというようなお話だったのですが、減っている一方で、何か親子連れが目立った気がしました。コロナ禍で多分、県外に出かけられなかったので、身近なお出かけスポットにお出かけして、博物館の見学も楽しんでいるのかなというふうな印象を受けておりました。

毎年、えと展を開いていますが、個人的に非常に楽しくて見に来ています。パネルは大人が読む分には非常にじっくり読める内容で面白かったのですが、子供には少し難しいかなという説明が続いていて、親しみづらいような印象がありました。このコロナ禍で外出先が限られる中で、親子で来やすいような博物館という意味では、ところどころに小中学生でも楽しめるコーナーがあれば、さらに惹きつけられるのではないのかなと思っていました。このえと展は、取っ掛かりとしては非常に子供も興味を持つテーマでもあると思うので、少し考えていただければありがたいです。

あと、えんぶりの展示についてです。私も非常にえんぶり好きですので、毎年見に来ています。特別展は非常に充実していますけれども、常設展のほうにえんぶりのコーナーが一角にありますよね。えんぶりってこの地域の誇るべき民俗芸能で、県外から1回見に来た人は、すごく多くの方がファンになるというので、観光で見に来る人もいれば、さらに民俗学的に興味を持って調べたいというふうにお話されてくる方もいるので、今の季節限定の企画展はもちろん、常設展の中でも少しコーナーを広げられないものかなと思います。あそこが無理であれば、図書コーナーで、少し民俗学的に興味がある人の満足度に応えられるようにするなど、えんぶりにもっと力を入れて常設展でも紹介してもいいのではないかと常々感じているところでございます。以上です。

議長

そうですね。民俗で、えんぶりとそれからお祭り、これを常設にする、これがやはり八戸のメインだと思います。ですから、そういうコーナーがあってもいいのではないかなと思います。三社大祭もお忘れなく。

事務局

リニューアルしたばかりなので、今すぐは変えられませんが、博物館の役割としたら本物を見せるということがありますので、どうしても三社大祭もえんぶ

りも本物は見せられないわけですよ。その当日だけのものになるので。そうなると、活用するべきはやっぱりアーカイブということになってくると思います。民間ですけども、三社大祭のほうが今ある程度できていて、えんぶりのほうがない状態ですので、その辺、やっていければと思います。

川口委員

えんぶりファンは確実に増えていますので、ぜひお願いいたします。

事務局

それとコロナのお話で入館者のこともありましたので、他の委員の方々もコロナの話が多かったので一言です。去年は緊急事態宣言が出た直後は、皆さん少し恐れ過ぎて、私も含めて、過剰に対策をしていたのですが、時が経つにつれ、こういう工夫をすればできるじゃないかと、方法が段々分かってきたということがあって、後半は閉めることなく、イベントはやり続けた状態です。後はまた東京みたいに拡大すれば、それによって閉めることにはなるのですけれども、印象としては、次年度は割と予定どおりにできるのかなと期待をしております。

議長

民俗のほうに三社大祭の写真があるのですけれど、あれも随分古い。10年位前のですか、やはりそういうパネルも新しくして、それから無形展示室もきれいになりましたので、三社大祭とかえんぶりとか、そういう八戸を代表するものがみられる展示室になればいいです。建物は狭いですから、きちんとは置けないですけど、やはりそういうものは必要だと思うので、検討していただければと思います。

そのほかございませんか。

有馬委員

それに関してですが、映像で流してもらおうというのが、やはり一番わかりやすくインパクトがあると思います。その辺、活用してもらえばよろしいと思います。あとは、南郷で葉たばこ展を開いていて、そこでも映像で「葉たばこの農家の1年」というタイトルで、1年間の農作業を学芸員さんが1年間農家に密着して取材した映像が流れていて、すごく分かりやすくいいなと思って見ていました。そういう活用の仕方をしてもらえればよろしいのではないのでしょうか。

議長

鈴木さん。

鈴木(善)委員

先ほど館の方にお話ししたのですけれど、ひな人形展ですが、五人囃子の鼓の持ち方が、人形だから無理があってできないところもあるのですけれども、享保雛は正しい持ち方をしているのですが、逆に持っているものがあり、小鼓でも大きいものを大皮(おおかわ)というのですけれど、それは肩に持たないで下に置くのです。それが肩にしているのもあったりするので、そのことの詳しい説明を出していただければうれしいなと思います。

議長

よろしいですか。

滝尻委員

私からも次年度の件についてですが、2ページのその他調査研究のところ、糠塚のお不動さんですが、古いものがたくさんあって、私も興味深くしていたのですが、この調査事業がどこまでどういうふうに進んでいるのか、少し教えていただきたいなと思います。

事務局

糠塚のお不動様につきましては、まず堂内に何が何点、どういったものが収まっているか写真を撮りながら調査をして、そこからというところだったのですが、コロナになってからは、やはりなかなか調査に伺えず、身動きが取れていなかったということがありまして、今、取りまとめている状態です。具体的な点数が取れていませんが、今まで進めてきた分を考えますと、全体の6割、7割ぐらいはみられたかというところではありますけれども、一通り、全てのものの調査をしましたら、どこかの段階で何かしらの報告のような形ができればと思って調査を続けているところです。

滝尻委員

分かりました。人手が足りなければ、定年退職者の私もボランティアで協力しますし、工藤副会長もいますので、そのための協議会委員でもあるので、いつでも声かけてください。協力します。

事務局

お願いします。

議長

そのほか何か。

それでは、(3) その他になります。

(以下、事務連絡等)